



三河後風土記

六



三河後凡古記正說大全卷十二

目錄

一一向宗賊亂之事

附降系

一神君与小原肥前守挑戰

附亦多忠儀一番陸言名

一神君三遠戰功

附

三身新氣質小傳三ヶ條

後松大釜矢矧大橋之事



一 織田信長と畿内征伐

一 氏真信玄不和

三河後風土記正説大全卷之十一



三河後風土記正説大全卷之十一

一向宗滅亡と事附降系

初て時付 祢君は伏兵を設けしを知らず其を經兵急ふ力に立
降すは後迫る謀なり弱しとあらず伏兵の中へ格入れ其
味方は是を突んと思ひ追ふに進むは伏兵急ふ力に伏兵急
付矢田は彼亦あり斤山及び石弓と伏兵を誘抱せ其是日の下
（日月みぢんおとさんと稱す）進んで後迫る人をして捕縛せしむ
上野の酒井將監様其の松平監物及のりお出波して其を伏せし
静まり返りて今や進つと扱ひし是を以て其も初し其告り
馬を打て進めありそ危りれ矢田は仲よりあのみ少きね思系
との威 たるは是も静まりありんと稱すは是も其の権谷半心

中子思ふや我亦既ハ後世ノ沙院ハ亦朽む在主人ハ對てらし
名れども不敵といふも女侍設くるも如くをまき治つ何と
してゐ道取の久何れ矢は此も互を氣させ女亦おれと柳
葉一りりり馬と系也妙玉寺の老尼此よりあつて結んぬり
出て大菩薩揚て干袂地の御合松の忌一ヶ松おせよ女弓の流林
ヶ松おせよと不知り此ハ矢田野といふ事大松おあふりれ
不知りてたまり物と川今野谷松大菩薩揚歌と難不傍川
入れて射人とまらふも配りまらる語くと兔角きて退を三層
以て三層まらるる漸本形一川まらる也む邪妻は神を亦覺者や蜂
谷ヶ松もまらる時しりれ一一定味言難之川入人とまらる告知
まらる美くも忽ホ人おとまら此親近といふ進路ハ信田揚て

川返りあふ矢田作十郎大お怒り蜂谷の事もふする用意遠く強
念くまらる某とて神ノ火と森陰を修ひまら中軍と見候し
邪妻と目をまら大菩薩揚て佛歌の徳川及天果ハ福矢まで見
ぬといふ公大お怒らせ候ひ已推参之と此向も矢田作十郎大お怒
揚り右此白は此も元々菩薩系月此ぬくも兵と敵つて矢
田野中する是といふか多大お怒り汗池の罪路此といふ罪路
も思ひ急ぐせんも花をる作十郎二の矢と書て兵村の忠務の御板
小をりて中子厚命の一寸の事なれも矢田野に花散り矢田ハ文字
に逐ふを何とてと追ふけしり邪妻由來死之思人教を御あふ
是川と忌路の方一里半をまら大平川
信田作十郎の信田作十郎の信田作十郎
女雄雄も有物也矢田作十郎ハ後田作十郎ハ白てりりハ我既ハ

竹谷討死是悟して自是より其物を山城へて移りし 神君も
是と承知して進もて死力を尽し城の中に入り及ばず討て死し
切死せよと大久保海軍の軍田小右衛門が盗賊と云ふ小豆坂
押上りてあつて一戦せんと思ふ人て急ぎ進みし元より跡方七
が死すられ、兵を治めて御りぬる は昔氏名はあつた
のふ日と書せり かつ折しも石川
新九郎兵衛口新十郎大兄は依橋を布浪切陣を以て平一
働久とて押上りしと思ふよぬ跡の上より白旗をひたし居る中馬市
即められぬといふは往川及よとて居る一揆方とて居れて進まぬ
神君も此の一言を承知し廉清の如く鬼神と進まぬと中馬と打てを
居る石川見事とていふはいいひ甲斐守に於て教ふ格なりと
川原守とて知して進めて打てかたを打てし進まぬと中馬の如く

中馬柳原天晴平兵衛切先より大と出陣し、其分此は又もや一揆
と居れて進まぬ 神君も先の中馬と進めぬ一人も進まぬ
と居る中馬の如く進まぬと何れも先とて居る上
神君も此の一言を承知し廉清の如く鬼神と進まぬと中馬と打てを
居る石川見事とていふはいいひ甲斐守に於て教ふ格なりと
川原守とて知して進めて打てかたを打てし進まぬと中馬の如く

く、その内、は陣に退けと急ぐ計略（近矢より） 祢君は其心
小政を預けり少人等も苟くおはいくやと其後、いへ極く、大久保
中より、祢君は、不審の事と信おれ、大樹の登屋上人を子同高
小御老させて、指標（直隸の男母と称す）を極め、其の中より上
公大子、後在あり、内、は、後、祢君代さる、石丸、計略、と、文、破、ん、と、ま、
り、お、老、老、お、お、馬、を、并、て、計、を、論、（押、寄、給、す、お、家、人、を、思、お、ぬ、お、後、
く、より、も、固、く、信、を、や、る、や、切、先、を、並、て、切、て、上、り、ち、内、より、も、升、て、お、て、
お、お、と、喚、お、て、妻、親、小、中、少、と、後、也、お、後、お、前、り、と、拂、て、切、て、
お、人、お、と、捲、り、お、り、命、を、降、と、標、命、お、ぬ、お、前、其、の、甲、胃、を、た、
る、武、を、ま、し、て、い、お、後、也、日、の、廣、言、社、を、り、主、流、お、足、申、り、と、中、根、
お、後、と、猪、負、お、と、る、と、海、也、笑、り、お、日、の、武、勇、自、漫、心、情、

幸我流先よ白て尺よと、突入せ上、後、秘、測、を、耳、せ、と、猪
肩、は、更、お、前、より、中、根、云、お、力、を、い、つ、ま、し、と、云、海、也、之、何、の、力、
お、て、七、叶、七、叶、お、ぬ、も、い、お、り、ち、り、と、又、い、建、れ、合、念、と、口、を、後、
相、打、合、ら、う、お、後、お、切、は、た、口、を、更、後、一、海、を、右、左、お、前、を、立、
相、切、下、を、お、後、お、綿、く、し、切、て、お、方、お、後、お、り、を、左、お、前、を、
お、前、を、退、お、退、お、切、お、ぬ、お、り、の、方、お、後、お、海、也、お、後、お、一、標、
お、前、お、人、お、前、お、り、お、前、を、お、公、の、後、お、お、後、お、前、を、切、て、お、
お、い、い、く、お、と、お、後、お、前、を、此、合、念、を、内、より、も、標、命、を、切、と、お、出、處、を、
巻、を、お、前、お、前、お、人、お、後、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、
困、む、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、
お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、お、前、

後世の道は、此の宗家の正法と思ひ、る相の形法は正信云佛法也
罵る吉田のつてつくるも、さび余りきりめくも、吉田原を存る心城
静めて、吉田より一人小引引の八蓮葉の正信云悪し、此の宗家の
吉田云、各々佛の何者、正信云、此の陀佛の吉田云、此の陀の力
形、かくも、此の陀の強ひ、成る、とせ、と、や、存、言、は、此の料、理、を、答
應、する、も、さ、の、嫌、ひ、の、物、を、探、て、節、め、い、ま、元、却、て、脈、を、ま、し、此の陀も
と、な、り、一、人、小、引、つ、て、宗、旨、を、さ、む、ハ、別、答、意、不、以、り、也、一人小引引の
嫌ひ、成、る、と、振、る、小、引、つ、て、一、か、り、し、正信云、史、不、記、極、者、也、吉田云、有
既、不、大、先、帝、身、經、中、八、卷、の、中、第、十、八、卷、唯、除、上、蓮、誦、謗、正、法、と、説
多、り、は、同、と、和、語、小、引、せ、は、只、五、蓮、の、惡、人、と、正法を、誦、り、宗、と、ハ、極、樂
性、生、さ、す、ま、一、た、の、極、樂、一、と、五、蓮、の、惡、人、出、し、め、可、次、や、八、蓮、不、而、ハ、

この深陀と教て極樂性生、多々、正信云、後、極、重、惡、人、無、他、方
便、唯、稱、深、陀、得、生、極、樂、と、は、い、ふ、吉、田、云、史、の、今、も、惡、人、を、以、て
心、を、改、て、佛、身、を、以、て、佛、の、中、で、罪、と、依、れ、ハ、深、陀、ハ、助、け
ぬ、ハ、各、ハ、世、に、修、行、の、奴、と、成、り、佛、の、友、と、背、き、て、い、ふ、福、宗、云、
為、擔、せ、と、も、實、に、佛、ハ、性、生、は、更、合、の、者、と、ハ、依、り、稱、宗、と、い、ふ、
語、を、つ、や、深、陀、不、能、さ、ん、ち、而、之、と、云、正信云、時、佛、伏、し、成、禮、佛、り、合
立、佛、り、て、佛、各、お、し、て、許、し、合、を、言、す、ハ、深、陀、と、云、と、互、佛、り、と、稱、と、具
小、語、も、小、聲、も、た、深、陀、伏、し、深、陀、不、動、と、告、れ、ハ、深、陀、ハ、元、來、親、の、惡、業
事、を、念、る、存、る、赤、面、し、て、丹、下、り、り、佛、之、旁、合、を、背、轉、答、大、言、揚、て、中
々、ハ、左、ハ、永、福、五、年、九、月、より、今、年、七、年、と、既、三、年、忌、後、一、致、し、る、

佛、金、玉、邪、佛、切、斷、心、不、あ、ら、む、唯、宗、門、と、言、ふ、事、ハ、破、換、と

悲して企て一揆を以て終るべしを固うて極く不撓を加初て之
明の差出あり仍て三ヶ条の段家流と云お遠立並下山の陰集
して先此の段の忠務の為忠死せんと思ふに是れ不見と幸ひ
是後と奪ふんと人止る面しあふ中中ら此時答らおふ成り
こふ何れも亦心と同心と蜂谷と云然る幸我も胃の久保
忠務と取むへして三ヶ条と書て忠務一死ふと文小曰

一 今度内政はつらぬ家の人不残家免お成り
以極に 信曾 下下

一 三ヶ条の事、存信の如く是れ立並下下
一 一揆は本人、弟と黨を急可助命の事

仍て大久保保忠は、公認の介抱せ給ひ三ヶ条の内守と立並

尚同心は此の事、三ヶ条の思ひも不奇信流と初意は成り
へき中位は仍て忠政又教政大久保忠務、清前へ中上り
祝一揆三年お中人教無の漸学する時武田今川攻唐の
志以難依なり、同前信流の上を果され、中子孫
不可知の唯少しと不忠の大謀を乱る大め、細瑾と不願
と家不陳言は、公認下三ヶ条の事、めくは立並下家全
依あはれ、めん但浪切の教の二事、不引逆悪のぬる、
けりお成り、ハ多し、中令不替、さても、叶り、
中承り、この句、神句、と別極、と中送、
果神、免、
盤物、討、

王時淨玄孫の監物一令と申助七長く一是仇を思ひて報
し居るに又仇を仇とて報し居るに當時隣を悪く讒言致るれど
世に道にまじきと知り信人教(傳)を付是仇をさるの謂ゆる
へし能く申思案者(一)と申左申取家坊の申免あれに監物是
より先非の悔と勤を勵之し子孫お續き居る後若川甲斐と
攻降し不叶して城を落河内小湊泊して病死をて次小若良
宗照と攻め不叶宗照没落して江別等依り依り本古南右京左史
賢入右兼頼と報し標別若川令致討死の上申の海井が監は
石川日向と攻め此水福七年九月の城を落て後河内湊泊して
孫助治とて之を後河内人の中前(一)石石と依り河内野谷の
初め逢末原畏王時 神忠河内申不依りは之を大は之を幸為

擔波し款討中降不登五極去なる人いふれも早知も今世ハ此世
未世ハ此世なるれ我ホハ仇の言人神院ハ此世世の言人と存款若不及
處一理有し似たり信し此世の果科ハ免之て後末忠義をて居りしと
け時ある信者居りしと各存り知ふと極小治極小申之は此世
ありしと信して候ふ是より一換静澄申東之河内出張者(一)其兼
てこそ申用意者也

去れに其以東之河の旗降し小原肥前を稔実吉田小左衛門あり候
して山中の人若くは徳川家(一)公を傾けんも討難して東之河の面
此妻とて吉田此城(一)人質小百て用心も仍て設樂此設末三郎
南河内河内小左衛門 形圓の草沼新三郎定盈下条村白井何集探皆志城
汲人設樂市 神君通(一)其夫人質とて此末今川とありしと之を取つて居りし中

二連本二連本の城に戸田丹波守重貞と云ふ人あり又ハ丹波守重貞初ハ是也

神君神君の降参の志あり重貞の老母と人質小吉田内通子孫今丹波守重貞有（五九心小吉田何と

そ盗出さん之肺肝を碎くかしも肥前守双六のおもひより入魂在更何

か者といひて此之有る隙小室老母と山内道小云合也内通子孫今丹波守重貞有老母と

盗出り通り切子と出でて逃る丹波守も小便も立用情を城と出て馬小

策歩二連本一馳ゆり是後（仗志と立用味言下と河を以小原ハ

志短氣をけし申と閉て大お怒り次子小吉田をも預めせんして頼友

依保せり水野後藤大竹兵左衛門淡羽を夫妻奥山築田村の玉侍人質

と捨て神君神君随ふ依て没楽草沼と神として人質十九人と隨ふとの

苗不申指あり又海一逆折小沈め教を依り神君の味言小随て小原を

恨る面より中より小原を恨るハ吉田を妻とするとして先三ヶ所小此等と

策とては重貞も小原を命に命重貞と相谷り小室原新九郎長成二連本

小戸田丹波守重貞とて後み子余人の軍勢少くし出陣者小原是と

聞て我々氏重の命を更三河の山に籠りて居るを敵小城下と罵り人ハ

世に世もや何とて名を子余人より下ヶ地と云ふも人質を揮出さ先陣ハ

小原新九郎正徳を將とて徳川家の中人勢も酒井左衛門忠次先

陣をとり既し揮出列伍とて敵兵傷め首を切り楯を破れ羽小突る下て

待たる所も切て懸る一と神君も先陣酒井忠次並死傷て傷を連

むれどもも居る中多平命忠徳曰夫次布原孝峰谷半允成流

後藤大橋信内と神室重光の極兵一子余人陣後穂先と征進関の事を

仰て去る思ひぬて突かざる所も正徳を知り楯の破り立並し是後兵小

今も此の戦地とてなり井出をけそ玉板屋を去るも散のめくおん

長田水車小島一文字小北掛る内後大北怒り矢取て打掛ひるの直上
古下糸月と福ひ諸所大矢取つた隙も切し矢取近く故任小北
切切て移つ船橋心持つると声の下より二つ小切折ふ人の男おつ二の矢
取てするも毒を射す一射す一志運船小傷れれば人数楯め揚たなき射す
くと巻ふりり是を念とや思ひ人志小恙を大男八人中小楯の森
村取小節換赤て八角おと引提思多の大體二匹まて思つし隙に
射す内後及形し小舟橋お節之見み歎い下見糸と取つりつと正得る
の内信を根地内後より怒小味方の智白りつと白只今内後より取橋然
射る隙に油桶ひひ多て彼處を并殺せ心に下つと内照ハ三十月の二つと
おつた方より福ひひ多を小 祿君由賢者今内後をととて小内後ハ
矢り矢ぬれ出小舟橋を射んとまりつと引提思内信持つると首元

元並に内後をとらり遠へて兵と移の思ひも多しぬ内信の境の志甲より
脇と碎地骨と刺て横節遠く射す頬骨より肩とみり右に脇射
つ下取中へ内信中計運船小立つりつと引提小舟橋ハ内後より馬前へを
とつ何つとえ申の妙小味方の中を思糸の強小藤北角の並立お大力の
内後引提本多平八郎忠猪生年十七歳と名めりつと高貴るとむとつとく
内後思てとつと突六郎持つると更らふと後さぬ小二突三突電光
のむとめくと又へつと楯の楯折つと二舟橋つと入て彼人ともつと忠猪
せり掛て又一舟とて小舟橋の首水もたましを并殺す忠猪勇んて進
むる仁を仍り換へる也大男牧野忠公と名まて一文字小
北掛る忠猪物しやと突出内後を拂のけて内甲へ突入内後先
敵者を突撃すして忠猪の敵先を突さく小澤より大北怒り微

振りし知事多しを折らんと死す。小旗抱きて度孝の袖板ふをりし
中るきたひのの程ありし。位向ふ折傷れて目と鼻本多流し
流して度孝の影をたき、袂抱ふも根生かす。内ふ痛ていお居や
らぬ。お少悪夢目と血にるや。單れに雷丸の度孝むつくと起立し文字
小長谷川小流し。長谷川志よりて切るると対向神に更流しつと入
まると程流しよりて切もあふりて首をかく。折らぬ死力を度孝以て
戦ふ流石の大軍。小流し酒井の旗の東面。小流し南北小流しめく
えへし。あつて此と流れて起立する。 祐忠大志。世流し小流し
新九郎長慶の流しとせし。め流し兵二子余人大流し。折らぬめく小流し
傷の横金よりし文字。小切てをりめく。えへし。小流し。左別者。傷と
流し。川上二子。小流し。一子。 祐忠の。小流し。向一子。忠次。傷。小流し。向一子。付

小京大志。上。五。心。知。事。多。し。流。石。及。付。五。て。思。ひ。知。せ。よ。義。の。者。ふ
死。つ。に。程。ま。り。一。足。も。引。か。と。床。死。振。て。中。知。事。れ。い。ま。子。れ。程。及
川。向。事。先。改。秋。山。玄。蕃。元。白。川。傷。事。多。小。京。新。助。を。初。と。し。て。死。入
る。せ。入。責。物。小。京。小。切。て。汗。馬。事。多。小。池。邊。の。兵。草。事。北。小。入。交。る
太。刀。の。音。矢。叫。ひ。の。声。山。産。不。筋。し。而。瓶。子。煉。して。半。時。計。戦。ひ。く
あ。軍。旗。と。引。揚。た。る。小。血。ハ。流。て。川。邊。尸。ハ。移。て。累。こ。た。り。あ。軍
留。人。馬。の。息。を。後。よ。と。見。し。又。こ。を。入。て。妻。合。小。折。理。熱。流。事。多
名。事。て。本。多。い。お。り。と。一。番。小。折。て。出。れ。忠。猪。の。事。多。佐。理。事。多。を
奴。々。振。舞。不。骨。の。曲。若。某。事。と。付。九。ん。と。死。お。る。を。忠。猪。多。て。渠。い。女
双。井。別。の。者。救。ま。い。お。り。我。今。渠。と。引。つ。く。ん。て。投。ぎ。ん。汝。未。生。捕。れ
家。事。不。せん。と。折。理。熱。流。事。多。一。文字。小。血。通。せ。ん。け。り。切。の。程。を。心

... 振兵... 矢の... 宿願... 馬の上...
... 徳角... 蜂谷... 血... 大...
... 幸... 死... 想... 之...

三河後凡古記正説大全卷十一終

三河後凡古記正説大全卷之十二

神君之遠 戦功

... 神君... 正... 荒... 南... 之... 是... 者... 機... 忠...

伏見の河津田五郎大改大久保が志願の日七左衛門日次郎の戸田七郎
柳原小平を渡田半彦蜂谷半三が後討半彦戸田喜三塔
松平玄蕃元が後討半彦が後討大塚伴四郎を初として
追立く透りし河津田五郎追慕小平の後及河井正清を返
くると上持る河津田五郎快炮を下すを引退新を天野
伴左衛門の遠不見月知の村威其獲して馬上快炮持る河井
正清と追立下物とと第と院とに河津田五郎と河井ハ
尻目小眼の快炮の先卷小南の村を引返快炮を下すを
天野の快炮をより母衣付をうつと半彦蜂谷半三と一番快二交と
本多小先を突りきて能く敵とと地合く敵と打る八人首の槍
手小くり河津田五郎の志願をめぐりて正清と見身て今日の獲物

韋勢天代めく地切の正清振返りて誓ひと見し誓ひを以て一敵不
逃と河津田五郎と疾風めく追立りて正清快炮を以て半彦蜂谷
半三と河津田五郎と眼を以てけとと腕を以て誓ひ快炮を以て正清追
と蜂谷又追くくめは半三と二三人の蜂谷志願て矢声とけ地よは
あつと正清目を塞下と半彦河津田五郎と快炮を以て半彦追り内甲ハ
中る血煙とくと半彦と又へか腕を碎れ其快炮を切て甲ハ中
天小飛上る急雨其痛を以て尋常其老之を以て死せし死小大別
乃蜂谷志願の快炮を以て正清を馬より下りて志願快炮倒し首を
立揚るをせし河津田五郎と矢心腫れして大刀を逆振小突立せし死
たりと小平の追慕半彦村を以て河津田五郎(追入城)を以て
河津田五郎の快炮を以て追慕半彦の中より追慕半彦の追慕半彦の快炮

吉田とてを別字七ヶ城(通)とては時長徳信子孫等吉田西に
設楽の面をも意く此城言小陸ひり此を是より三別一五全内小入
よりり是戸田が一事此味方仕ま上げ是和勝の計ひ是此味方
貴者今相平の御姓氏を以て相平丹波とてふ

他つ今相平此種号は是初之位別相平の城に七百石是後持内
玉持平相平此種号は峰屋家相平阿波守忠英分初の大坂陣
の時之阿波徳清城に少石言七十九石代也

日六月ホ二日吉田の城を酒井忠次小治城代は信守御書
三河吉田に彼中分して後勤仕充吉田小口一系不出意の上
於入城を新知一申付由本如市山中一者不替一仍如件

永禄八年三別回京一由出陣有城戸田吉田降第氏由戸田衆

者て本多豊後守康重と城代小治信守相又三守めと吉田不
言力右近由吉田本多信守天野之命主徳(言力)原和意無
深し本多の利害言入申後通之天野の優長親使をして思意
深く事と多ふ初公依て此家中して心の掛ひぬ後人此由見
立違ふやと評判したり都て事初中判れと云ふ不吉民従ひ信守
思ふ概一も人此の考え小六ヶ文云此心せまるとて筆通る
人との報に若くはも教を授けず火を付り若くは火あふ不たうぞ
いづとて是を信守とて志くぞと皆記するふて書て言ふ此人
今息して治りぬる後を別由申入し時大坂の谷守を御覽し
是の何代なるも問を治ふ不是は今川家守益徳と責報に判然
の事とて申す 公家御後此の漢城小其(一)とて色あふ

其後仍存之、明又して心を又て林子を少く手候くと申多折
破れとて微塵も碎しむる心後、谷田翁の時、谷田翁の心を
申す。公別仍存之とて、申す。公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、
死にくけりて、申す。公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、
やと申す。公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、
後、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、
公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、
あつて、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、
余り、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、公曰、然るに、

昨の坊主とて、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
今、血を、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
朝、夕、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
とて、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
申す、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
是を、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
う、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
ま、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
抄、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
代、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、
後、その言を、その言を、その言を、その言を、その言を、

於丹之是小僧は業又其を判習と出家地勤も同有我木の
天定之常不利せん中法時以ハ判習自慢して上りていし
中我ホ以之判せりハ能マケ振あり以巾之脱小十四又ホ也
血留麻業と背てそ有る親も却て僥言と云一と是也小僧
之条之是大名と初家を用人以事ハ横目設け心持肝意之
一方以て事と成さる事ならんは信しと云又或時是海城下
矢劍橋洪水来て流ハ左子速可掛其ハ傍有家中中ホハ以
橋ハ世有稀あり大橋とて影交由相入一と上南時戦是知ハ由城下
舟ケ航ハ大河ホ一ハ要害の為不向後ハ船渡ハ不任付ハ舟中ホ
公曰は橋ハ世ハ此記録少も記しそ介有少も年家少も後日
玉中不誰知ぬ者もなく吳玉ハも言えハる橋をハ相入多き

今又橋を止て船渡ハ舟ハ健是ハ諸人ハ雜業を掛りハ舟不
此ハ要害を救ミハ人ホより時ホ寄ハ此ハ一人の志ホ有
要害とありホ有友行時ホ早く掛りハと信五と云也矢劍
の橋長計百八尺之鴨長明ハ舟ホ

思ハせハるを在里ハうハつませホ少ホおハぬ人ホもめ
相也時以京放ホけ伊川の臣三好修理大吏長菱口在京大吏義継其
臣相承深正久秀嫡子也ハ佐久通持威之嫡ハ永禄八年乙丑
五月十九日終ホ相軍義輝公と戦しホり前相軍義植公の子孫
所波也不ホまりハる也永禄九年十二月二日元義久と祈也
義祖も有て早世也之好長菱も同年七月四日死也白雲
義輝ハ由舎弟二人有ハ麻園寺因光二ハ一宗院覚悟ハ周光ハ

義勝長之云六八洞後三台命之云七八左京亮信定八八
右京亮信 九八女子十七女子十一八長之信長次十二八女子
外信康ハ市室寛永十三石子正月十日薨去由年七拾八十二ハ
氏御室十四八苗田肥前守利長室十五八丹羽長重室十六八二條
関白右大臣照実公此小方十七八筒井信俊与室十八八水野東
市正室十九八弟里小次格大御言及元ハハ公室也

永禄十年ノ秋信長義信等と傷レ信長より信玄一使之云
息女と信玄(嫁云云)云云信玄許諾云云廿八信長十八歳也
少テ沼州苗田五女并妻女子一人産テ苗田死シ信長廿廿一
日年十月四日甲州(區)又藏田掃部在之信玄此息女と成レ信玄
小婿ハ死シ約未也
信長甲州と重むと云云素向ハ信玄小婿ハ信長と云云
武田氏より小婿先江州入家内と切腹ハ人オ計レ

永禄十一年足利義昭公より長忠と使テ藏田家武官並
間及り信長三好松永等ノ運送と亡シ足利の家在真ノ計略也
又小次郎石中信長子運送中尾州へ公方と運送云云内也
用意あり去ハ信長ハ其死時方別有尾州ハ急去由テ京
都ノ事也此悪愛何事上云云(折出云云)廣げ云云榊原守
の翌年永禄正月經時永禄仍り近習只八人廻り吹礼の如く潛小
入洛し京都ノ様子と伺ひ候十三代義輝將軍ハ威儀(畠山尾花守等)
ハ病死云云子次郎昭云ハ知少ハ細川信元ハ家臣三好修理大夫長
慶ハ為小柄波ノ谷川小押也此等從者細川氏徳因後賢執持
小居云云天々云云少テ天下ハ皆三好ハ心持信長相ハ三好
に保云云して大勢成難云云思ひまより據の津小下り本陣屋

と下町の家を借りて階上を居る(上り二三百石)置り畿内西
海を見下し天下此形勢を看し概し工夫者し不本陣居り畿田と
云ふを知りて之を信長の小舅母居右衛門左衛門長政の
の(信長)数年(五)者(一)付て信長上(上)せらる(一)こゆて
居る(一)兵部式人密に(一)て信長と相(相)信長見(見)たり(一)討
共(共)藤(藤)者(者)押(押)掛(掛)る(る)其(其)肝(肝)之(之)消(消)同(同)意(意)以(以)信(信)長(長)之(之)從(從)八(八)人(人)下(下)り
信(信)長(長)大(大)口(口)此(此)扱(扱)小(小)と(と)り(り)確(確)と(と)睨(睨)こ(こ)巴(巴)等(等)相(相)以(以)人(人)為(為)小(小)自(自)得(得)ひ(ひ)ま(ま)り(り)と(と)す
之(之)神(神)口(口)以(以)の(の)奴(奴)原(原)一(一)こ(こ)放(放)せ(せ)ん(ん)と(と)定(定)ま(ま)り(り)討(討)る(る)大(大)戦(戦)懼(懼)り(り)て(て)概(概)小(小)中(中)に
在(在)り(り)時(時)信(信)長(長)の(の)誓(誓)ひ(ひ)以(以)所(所)願(願)の(の)光(光)の(の)電(電)の(の)如(如)く(く)唯(唯)鬼(鬼)祓(祓)小(小)出(出)さ(さ)る(る)心(心)地(地)以(以)て
波(波)阜(阜)を(を)以(以)り(り)て(て)近(近)所(所)に(に)ぬ(ぬ)信(信)長(長)ま(ま)す(す)り(り)河(河)内(内)の(の)一(一)等(等)屋(屋)の(の)城(城)小(小)以(以)於(於)其(其)中(中)に(に)
其(其)小(小)織(織)田(田)上(上)信(信)長(長)一(一)尾(尾)別(別)の(の)中(中)に(に)之(之)好(好)意(意)一(一)を(を)上(上)り(り)仕(仕)を(を)居(居)り(り)と(と)す

畿内にて居りて(一)在(在)り(り)諸(諸)代(代)の(の)士(士)卒(卒)小(小)子(子)余(余)り(り)て(て)之(之)好(好)友(友)の(の)由(由)先(先)に(に)社
と(と)以(以)中(中)之(之)好(好)意(意)て(て)是(是)等(等)及(及)勇(勇)將(將)と(と)收(收)め(め)家(家)老(老)古(古)と(と)相(相)談(談)し(し)り(り)小(小)松(松)山
正(正)兼(兼)兼(兼)松(松)水(水)澤(澤)正(正)三(三)と(と)云(云)信(信)長(長)去(去)年(年)桶(桶)狭(狭)間(間)を(を)今(今)川(川)氏(氏)元(元)と(と)討
て(て)し(し)る(る)諸(諸)將(將)者(者)悉(悉)して(して)以(以)跡(跡)に(に)傳(傳)へ(へ)り(り)常(常)傳(傳)の(の)人(人)小(小)此(此)以(以)必(必)當(當)家(家)の(の)員
と(と)成(成)へ(へ)り(り)と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)亦(亦)懸(懸)て(て)為(為)る(る)尾(尾)別(別)一(一)功(功)績(績)以(以)り(り)年(年)を(を)経(経)て(て)る(る)者(者)の(の)ち
信(信)長(長)の(の)家(家)を(を)左(左)と(と)近(近)所(所)軍(軍)陣(陣)評(評)定(定)者(者)我(我)亦(亦)近(近)年(年)數(數)交(交)談(談)を(を)重(重)ん(ん)じ(じ)り(り)小(小)
信(信)長(長)と(と)云(云)る(る)所(所)に(に)由(由)云(云)八(八)年(年)卒(卒)均(均)一(一)頁(頁)法(法)由(由)も(も)西(西)言(言)此(此)三(三)人(人)氏(氏)家(家)常(常)陪(陪)合
稽(稽)系(系)伊(伊)豫(豫)守(守)伊(伊)賀(賀)守(守)の(の)内(内)意(意)小(小)依(依)て(て)三(三)年(年)小(小)入(入)保(保)江(江)別(別)の(の)淺(淺)井
長(長)政(政)氏(氏)度(度)由(由)一(一)偏(偏)出(出)る(る)内(内)に(に)在(在)る(る)者(者)亦(亦)も(も)我(我)亦(亦)武(武)將(將)と(と)成(成)る(る)者(者)の(の)中(中)
如(如)け(け)ば(ば)一(一)度(度)に(に)帝(帝)勅(勅)小(小)答(答)と(と)立(立)て(て)是(是)れ(れ)免(免)收(收)之(之)而(而)以(以)て(て)終(終)る(る)終(終)骨(骨)を(を)抽(抽)て
よ(よ)と(と)有(有)る(る)信(信)長(長)の(の)意(意)を(を)出(出)し(し)て(て)復(復)成(成)る(る)中(中)に(に)信(信)長(長)を(を)一(一)部(部)の(の)長(長)

節不引別事不傳、及古備承禎有葉、甥親孝事、及秀八軍不
鈍、若少少、一家中思ひ合、北の法、備前守長政下郎右衛門、年
若、若、軍、兵、思、有、物、少、及、法、法、少、葉、不、隨、少、多、事、也、已、此
引、別、事、入、今、も、葉、の、何、人、限、早、速、も、入、難、も、多、し、何、年、法、井、と、法、り
ひ、て、事、終、の、互、強、之、心、其、傳、不、せ、も、也、と、思、少、之、法、井、と、引、入、謀、之、考、不
長、政、承、禎、の、寂、臣、平、井、加、賀、も、智、年、少、有、し、子、卯、方、之、事、之、年、井、不
返、り、返、し、し、ま、し、事、割、と、思、及、已、此、備、前、守、之、智、年、少、及、之、縁、と、縁、少、志、也、
乃、去、法、井、不、便、之、強、引、而、之、の、中、不、便、何、ト、ハ、終、不、を、く、一、と、考、不、破
河、内、の、承、禎、我、ホ、子、卯、方、之、安、忠、孝、之、事、也、つ、ま、し、若、不、入、魂、信、信、若
と、我、一、事、と、中、ん、れ、信、長、大、小、信、少、不、仍、不、破、ハ、引、別、小、宮、一、事、也、安、忠
事、不、引、之、因、後、して、長、政、不、告、一、む、長、政、一、門、家、老、之、百、集、め、お、後、也、

何れも互うん、し、し、長、政、云、は、初、て、の、事、ま、て、お、後、之、は、と、不、破、と、傳
其、信、長、五、ひ、思、慮、カ、ク、不、破、の、内、後、之、助、之、法、也、方、より、縁、者、不
中、中、一、し、い、ま、方、の、中、何、少、も、遠、方、中、の、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法
法、ホ、切、た、て、の、事、也、考、し、法、中、中、の、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法
同、乃、中、て、し、し、強、引、る、長、政、之、神、不、法、同、心、也、法、井、不、便、事、云、信、長、之、法、不
南、島、一、事、と、下、け、ら、う、の、必、事、法、一、法、也、建、人、之、事、也、一、事、也、南、島、一、礼、入
法、一、本、一、家、之、追、拂、ひ、京、法、不、打、て、し、し、也、多、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法
之、事、也、考、し、法、中、中、の、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法
多、し、法、中、中、の、事、也、考、し、法、中、中、の、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法
之、事、也、考、し、法、中、中、の、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法
あ、れ、法、中、中、の、事、也、考、し、法、中、中、の、事、也、法、法、少、に、此、方、も、日、近、法

有て内同心の上水登礼之爲に中仍てあ使小安菅等之在る川毛
之河守中務家長之流に在る信長を感心有下野書
古一の月と忘れ給はさるる御所へ依て菅等之少也
小安菅等心安くれと安菅等難多由信也
一五下重なる中中信長之傳成池田を事と記と押戻之入後
尤として折之紙と下依て婚姻ノ爲尾好お怒と相立年の
春信長之由妹之嫁又與人此時(者お市及之中之娘分小安菅
奥家老之掛之河守樂流等不破河内守同慶彦卿をお所
安菅等之在る川毛之河守中務家長之御所と出て小安菅等
有て南家一族の物と安菅等お扱將軍安昭の由新に中
信長大小悦て月意等御所永祿十二年六月廿八日兵僅百餘

計おきてして近江由一五親等之立紳人御所不破河内守
信長之我意て天下の礼之流めん之流まして今安菅等
る小一被して事成へし乃安菅等子御所公方家之信家等せよ
信の策と長政の立一御所入信小由安菅等立出ん志
多と長政云南時信長親等子親等親家人の親等況此
人小悦て之を不破の中如く傳の人御所御所(西)と流中如何
之存是安菅等をこめり長政信の中(一)と信長如く(七)安菅等
の形此物何程あるか安菅等と別親等安菅等城小由(三)安菅等
心見の安菅等目が安菅等安菅等信長之安菅等安菅等
者につく親等安菅等安菅等安菅等信長如く(七)安菅等
向て是(一)安菅等信長之安菅等安菅等目が安菅等大別(七)安菅等

別々出立し志も多病て去らる心小叶小信の家老永井居たりと不
考の娘と云物多事と云きし心居たり死して後小家老永井居たりと
玉中の傳五郎と云ふ時を以てと道心と都て去岐と遊出て
原はと云治め尋後山極たりと云及三喜死して後小原治の三合流
の中務系伊藤と妹と云双井貞婦と云及三喜と云及伊藤と
妹と云三喜と云送る事也なり出りて云及三喜と云及伊藤と
つと後れししけ服小男子出生後尋後右左衛門と云母の忌量
と後して去大女守居り小三喜一尺寸の扇と云及小三喜と云一尺
許下小三喜と云大女守武勇人の能也後小三喜と云及三喜と云二人の男子
者能事以孫四郎と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
互及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云

存多世の為不中城と出てる事也後小信の人手許りて去給合傳
とて伊賀伊賀と竹越橋は入る移系伊藤と云及三喜と云及三喜と云
皆と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
死て去三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
去と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
小三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
孫四郎と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
障つと出せハ及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
是の及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
去の及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云
去の及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云及三喜と云

面ハ二条へ至りて所候之中、中少半井廣房、鉦音院道之
連、身原紹巴、召化ありし日、尺之、信巴扇、其書を執りて、披露の時

二、本年より入令日の候、マ中上、美昭公云あり

吾拙小、子代、百代、の、府、を、

于、後、河、別、若、守、候、に、之、如、古、京、右、左、又、其、継、執、ひ、に、之、極、に、小、市、院
云、中、上、天、祚、升、る、博、お、ま、り、て、際、系、せ、し、ら、五、歳、内、皆、静、謐、の、時、に、
又、申、り、候、歸、此、用、意、有、し、信、長、に、所、暇、に、中、上、の、小、時、美、昭、公、に、立、
向、つ、せ、多、上、暫、中、移、方、更、清、信、に、所、感、状、と、云、下、細、川、兵、部、右、左、又、若、
和、田、守、候、も、惟、政、相、其、主、小、の、せ、て、二、つ、川、右、衛、尉、の、由、後、と、云、下、信、長、侍、て、
所、感、状、并、見、考、ふ、云、文、に、曰、

今夜、固、く、之、凶、説、等、不、従、日、不、移、時、追、活、に、糸、武、骨、天、下、

第一也、當家、再、直、不、過、之、跡、國、家、安、全、偏、私、入、り、外、之、他、
事、於、孫、孝、悌、政、下、也、

永祿十一年十月廿四日 美昭

父、織、田、彈、正、忠、及、

叔、又、于、以、孫、河、の、今、川、氏、共、ハ、悪、將、在、日、夜、酒、喜、陣、等、不、日、を、送、り、
刻、三、浦、村、を、執、取、十、八、士、是、を、誅、之、武、田、小、保、一、心、を、考、る、中、少、也、三、浦、
と、市、河、田、右、近、諸、名、陸、奥、寺、苗、山、傷、中、も、朝、比、系、兵、清、太、左、等、ハ、
甲、別、信、を、小、陸、所、せん、之、云、信、を、從、臣、を、集、め、評、定、一、區、也、我、之、別、へ、
御、久、々、思、夫、甲、信、雜、亦、在、御、難、し、今、川、小、保、地、を、別、より、出、る、時、に、
御、事、し、今、幸、氏、共、家、人、九、我、小、心、を、考、せ、孫、小、保、を、可、也、氏、共、
古、今、小、例、し、勿、れ、思、得、方、也、六、小、条、々、徳、川、一、小、歌、を、奪、り、し、之、を、

他人のおもひより一家に信玄を奪はんと思ふに馬場
信房之信玄を討つに大敵のり多しと云ふを奪ふ誠小倉歎也。近江振
舞を討つに中一丸を志す及る矢に信貞のありしと信玄権嫌悪者大分
振るを云ふれを必死と云ふ今氏を以て地を云ふるも不慮して
云ふぬし山孫昌原止事と云ふを云て中一丸は是れなり云々
云々の知れを云ふなり今川も云ふ言ひて彼方より多切有秋小
由五中ひいて云後見しと云ふ云々信元永禄十一年九月上旬使中
入り多し義元の命合戦今も是なり早元氏云の力ハ叶新なり信玄
氏云小代りて織田徳川と一戦して早元の権限を奪取し取て去
我より信貞ハ敵地と云ふ信元は信元は信元ハ氏云の形も東
三河ハ信別伊系小徳元出馬も云小豆坂を別と信信玄小但

さりとて別より出陣して信元を城を以て信玄小元を惜まれ
ても終には定て徳川へ切捕れ給ひん云と云送る信元は信元は信元は
立腹者我父は命合戦を信玄小代りて或や尚家世怨故信元を
縁者小代りて上宮家世天福寺の伊勢物語も返り信元は信元は
も命はかく借るなり必死と云ふ一語ある只今中一丸を
指すれがと云ふに胡比奈原を命首捕獲る出水郡平水村
梶之助の兵ある信玄へ心と云ふ尚家を亡しんと企てる
信玄の中一丸の状を深き命奪ふ小よらて如新謙然身ゆ身
鼻を切る奴をれを討つに信元は信元は信元は信元は
遠く甲別へ陣り始終を信元小中一丸信元は信元は信元は
おの氏を我孫小代りて是と云ふん小豆坂を別と信信玄小但

いまし暫時別を移す由不後陣の備するあり大勢不五去らぬを爰
彼軍不及今之の暫時を移す其系板何卒農夫と近寄けり道中
有らん様子伺ひしりて先ふをこねて多る兵ま不馳候ふせめて一人
もあらずと恥候てして向ふ見上るる不尻候付くる桶人山の尾務と
池を不政親娘くくる系よせ暫くと扇のひち招き桶人立ゆり畏る
政親を君と同法を信とそ政親云我ハ徳川度家来酒井政親と
云とのこし候ふの事あるに汝何事冒道を知らざるあり必大身不
有らざるに桶人多て畏り傷や兵庫勇て徳川度不後語を告れ
毛の宛を揮り求めて用心せぬ中しをせぬんると思ひもよすも
乃去あぬ森かくれ不懸刑にたふして中老のゆ之集ハ元今川の臣不あり
氏美を諷め三浦の備とて受ては不不引候り在兵恙一是と

由親と成ゆり計多記ある不御をいせむ事政親を系返して
と候くも上る候て公自ら候所不御とせらる由信ハ酒井不
平石後也服部天将主従七人の刑部大内御目之侍る公別以
事と候不敬尋中候あれ候て由是仕御り候は候不御
物も及あり字理合格の咋候中御不御とせらる(まや去
まうに二股の城とさるうう松井の務付及を固めぬハ容易に由
不不ら候とて公危角を記方よりをまん一擧めぬ事ハ不苦信
何れハ刑部大内御揮返して浪名越ハ兵庫道也此ハ士一擧お信ハ大
切不と元切は甲し候西大寺不はとも是能由候不候と思召
まはに之將由信は控下して一たたてて中とて桶人の御不御
き人池物も初候く池物ハ先事そ由安内申上る本候の幕幕世也

Handwritten text in the top right corner of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in the top right corner of the left page.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in the bottom left corner of the left page.

